

あくていぶ21 森 喜代造 議員



1 高齢者の虐待について

質問1(1) 相談通報件数及び発覚後の対応について。

答弁1(1) 通報件数は3ヶ年で75件、在宅からの通報は72件で暴力や暴言のほか介護の悩みや相談など介護関係者や民生委員等から連絡がある。また発覚があれば事実確認をして聞き取りを行い、家族に制度説明をする。

質問1(2) 高齢者の虐待防止マニュアルは適用されているのか。又専門的な人材は確保されているのか。

答弁1(2) 各施設でマニュアルが策定され、本市も虐待事案に対応するため、指針を策定している。又地域包

括支援センターに社会福祉士、主任ケアマネージャー、看護師の専門職が常勤しており、相談や介護予防の事業を担っている。

質問1(3) 地域包括支援センターの役割と、在宅介護支援センターについて。

答弁1(3) 介護予防を初め、高齢者の支援を行う。また、在宅の要援護高齢者等が福祉サービスを受けられるよう、連絡調整等の便宜を提供する。

質問1(4) 権利擁護事業と成年後見制度の考えと、社会資源について効果的な取り組みはできないのか。

答弁1(4) 権利擁護事業は認知症や知的障害者等、鈴鹿市社会福祉協議会で行っている。又、虐待防止等は、介護サービス関係者等の連携が重要で様々な機関とのネットワーク構築に取り組み支えている。

あくていぶ21 伊藤 健司 議員



1 レインボウ・ヒルズ計画について

(1) 計画の策定経過について

(2) 1期事業箇所の埋立完了後の土地利用をどのように図っていくのか

(3) 今後の方向性について

質問1(1) ごみの最終処分場の整備を契機とした地域特性を活かした開発計画の策定経緯を伺いたい。

答弁1(1) 平成元年に鈴鹿市北部地域開発整備構想として、処分場区域を第1期分から第3期分に分け、順次、埋め立てを行い、その用地を面整備事業などにより整備を図り、その事業効果を活用して北部地域全体の活性化を図っていくものである。

質問1(2) 埋め立て後の跡地利用については、単に

緑化し原状回復するだけでなく、さらに一歩進めて地域周辺の環境整備も配慮した新たな地域開発(スポーツ施設や防災公園、新エネルギー施設等)に取り組んでいけないのか。

答弁1(2) 1期事業用地も含め、事業用地内の利用方法については、地元の連絡協議会や地権代表者会議の皆さんと真摯に協議を重ねていくとともに、借地用地の買収についても努力していく。

質問1(3) 埋め立て期間の長期化や社会経済情勢等の変化もあり、時代に合わせた見直しの必要性は。

答弁1(3) 計画の早期実現に向けて、約25年前に掲げられたこの大きな構想に対する地域の方々の思いを十分に斟酌し、どのような世の中になろうとも、それに対応したまちづくりを進めていきたい。

政友会 大杉 吉包 議員



1 市の将来のまちづくりについて

2 鈴鹿フラワーパークの現状と活用

3 障害者雇用について

質問1(1) 少子高齢化社会に対応したまちづくりについて。

答弁1(1) 現在の土地利用状況を基本とし社会状況に対応したコンパクトな市街地形成をめざす。

質問1(2) 市街化区域未利用地対応について。

答弁1(2) 未利用地は500ha残っており、土地区画整理事業や、小面積で分散している場合は都市基盤整備に努め宅地化をはかる。

質問1(3) 調整区域の土地利用の転換について。

答弁1(3) 工業系土地利用が基本だが、防災減災

の観点から土地利用の見直しも検討したい。

質問2(1) 鈴鹿フラワーパークの現状について。

答弁2(1) 平成14年に9.9haに花植木を活用した都市公園として開設。土日祭日はにぎわっている。

質問2(2) 指定管理者(民間)を活用して、高齢化時代を迎えて一日中楽しめる、パークゴルフ・温泉・自然体験施設等を備えた公園として活用できないか。

答弁2(2) 今後さらに高齢化が進む中、有効性や法令等と照らし合わせ今後の課題としたい。

質問3 障害者雇用と福祉的就労について。

答弁3 国の法定雇用率1.8%に対し、本市は1.62%と低い。ハローワーク等と連携し取り組みを強化したい。障害福祉についてはサービス事業所に対して新規参入や定員増をお願いする等相談に努める。